巻頭言

「太陽の船」

「医療」編集委員長
東京医療センター
副院長

大　島　久　二

IRYO　Vol. 65　No. 1（3）2011. 1

新春のお喜びを申しあげます．

昨年は，国立病院にとって大きな変化のある年でした．旧ナショナルセンターは，昨年4月よりいわゆる非公務員型の独立行政法人として各センター毎に新たな出発をしました．また，事業仕分けの大きな波が国立病院機構に押し寄せました．厚生労働省内の仕分けを含めて度重なる資料収集そのものでも各病院は疲弊しました．さらに短時間の劇場型ともいえる広い視点の欠けた一方的な議論は，現場の士気を大いに削ぐものでした．

このような変動の中，国立医療学会に所属している国家と直結した国立病院機構ならびに各研究センターでは，改めてその使命を考えるよい機会であったともいえると思われます．国立医療学会の学会誌である「医療」も，その役割は当然より重要になると思われます．学術誌である「医療」の特徴は，医療を担う各職種が一堂に会し患者さんの目線に立ち，一貫して医療を学術的に記録するところにあると考えられます．われわれは，最先端の医療，地域医療のみならず，結核，感染症，重症心身障害，神経難病，医療観察法における精神医療等，我が国の医療に必須であり，かつ民間医療機関では実施困難な医療を担っています．さらに災害時の緊急医療支援に加え，まだ記憶に新しい新型インフルエンザ防疫への支援とワクチンの緊急治験事業等，国家にとってなくてはならない重要で大規模な事業も担っています．

「医療」では，国立病院総合医学会のシンポジウム報告も含め，多くのこれらの医療・事業の実績を報告してきました．残念ながら，まだこれらの実績は広くかつ十分に一般の人々に理解されていない点もあるようです．「医療」は学術誌ですので，一般の人々に読まれることはまだ少ないといえます．しかし，医療は高度な学術的裏付けがあってこそ信頼されるものであり，「医療」がその基盤となる学術的データを提供し続けることがまず重要であると思われます．そして「医療」が，国立医療学会の進む道へ皆を運んでいく「太陽の船」の一つとなることが期待されていると考えます．

本年はこの点をふまえ，他の専門誌ではなし得ない総合的かつ医療の隅々に至る領域での学術的な情報源として「医療」を発展させていくべく努力していきたいと考えています．国立病院に集う方々に一人でも多く国立医療学会に参加していただき，この取り組みに協力していただければ幸いです．

新年を迎えて，皆様のご一層のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます．